整理番号

D－8－5　　352

標 題 名

作物害益虫標本説明

著 者 名

発行者名

丸山方作

発 行 年

明治 32

製作年月

平成３０年２月

作物害益蟲標本說明

植物防疫資料館図書之印

從來諸方ノ辱知諸君ヨリ昆蟲標本ヲ請求セラルヽコト甚多シ然レ𪜈余ハ自用ノ外製作スルノ餘裕アラサルヲ以テ數年余ノ昆蟲研究ヲ補助サレタル松崎種次郎氏ニ調製セシメ以テ他ノ希望ニ應セリ爾來之カ說明書ヲ促サルヽコト屢ナリ由テ習性經過並ニ發生期等ヲ記シ併テ簡易ナル驅除法ヲモ錄シタルニ紙數甚タ多キニ至リ標本ノ說明書トシテ呈スルコト難キヲ以テ削除ニ削除ヲ加ヘタルモノ此略解ナリ惟フニ應用昆蟲學ハ現ニ泰西諸國ニ於テ著キ速度ヲ以テ進歩シツヽアレハ局識余輩如キカ假令千万言ヲ綴ルモ數月ナラスシテ覆醬ニ屬センノミ此說明ノ杜撰ナルハ永ク用非ラレサルコトヲ欲スル所以ナリ閱覽ノ士之ヲ諒セヨ

明治三十二年一月

丸山方作

害蟲ノ恐ルヘキハ人ノ知ル所ナレ𪜈其慘狀ヲ目撃セザレハ感觸自ラ薄ク從テ之カ驅除豫防ヲ忽ニスルハ人情ノ常ニシテ太平ニ亂ヲ忘レサルハ望テ得難キナリ然レ𪜈一朝害蟲ノ猖獗ニ遇ヒ農者圖頭ニ涕泣シ商工亦衰癈スルノ悲境ヲ現出スルニ及ンテハ假令幾多ノ妙計奇策アルモ施スヘキノ術ナシ如斯ハ先ツ稀有ノコトスルモ平年ニアリテ害蟲ノ爲ニ被ル損害ハ全國ヲ通シテ年々數千万円ニ下ラス加之種々ナル害蟲ハ年ヲ追テ增加シ前途恐ルヘキノ時ニ膺リテ一切冷談ニ觀過シ被害ノ目前ニ迫ルモ敢テ意ニ介セサルハ實ニ危險ナラスヤサレハ種々ナル方面ヨリ當業者ノ注意ヲ促シ之ヲ未發ニ防遏シ其蔓延セサルニ先チテ驅除スルノ法ヲ攻究スルハ國利民福ヲ圖ルニ於テ目下ノ急務タルヘシ方今昆蟲標本ヲ小學兒童ニ示スノ說頗ル盛ナレハ農事改良ノ一法トシテ喜フヘキコトナリ嘗ニ昆蟲ノ知識ヲ神速ニ普及セシムル良法タルノミナラス兼テ生物界ノ狀態ヲ知ルノ好資料ニシテ學術上頗ル趣味アルコタルヘシ彼ノ蟲類ノ多キ一々其性狀ヲ知リ應用ノ法ヲ究ムルハ專攻者ニアラサレハ能ハサレ𪜈普通目ニ觸レ易キ蟲類ニ就テ害益ノ區別ヲ知ラシムル如キハ差シタル難問題ニアラスシテ且ツ之ニ由テ自ラ其習性經過等ノ梗概ヲモ知ラルヽニ至ルヘシ

害蟲ト益蟲ノ別

害蟲及益蟲トハ農業ニ對スル利害ノ点ヨリ假リニ區別シタル名稱ニシテ科學上ノ類別等ニ關係セス故ニ作物ノ種類其他目的ノ如何等ニ由ヲ時ニ害益ヲ異ニスル塲合

ナキニアラス今玆ニ言フ所ノ害益ノ區別法左ノ如シ

害蟲　トハ作物ノ生育ニ害アル蟲類ニシテ主ラ其餌料ヲ草木ノ葉莖花實若クハ液汁ニ資ルモノナリ

益蟲　トハ蠶、蜜蜂等ノ如キモノヲ稱スルヿ無論ナレ𪜈斯ク直接ノ効ナキモ肉食性ニシテ小蟲類ヲ捕食シ又ハ他蟲ノ卵及躰内ニ寄生シ間接ニ吾人ニ稗益ヲ與フルモノ亦益蟲ニシテ其數頗ル多シ是等益蟲ハ則チ自然的驅除ノ一ニシテ其害蟲ヲ斃シ蔓延スルヿヲ得サラシムルノ効敢テ人爲ノ及ブ所ニアラス然ルニ從來觀察力ノ乏キヨリ蟲ト云ヘハ率ヂ有害物ト見做シ往々益蟲ヲ驅除シ却テ害毒ヲ助長スルヿアリ故ニ今日ノ急務ハ先ツ害益ヲ識別セシムルニアリ更ニ一歩ヲ進メテ益蟲ヲ保護蕃殖セシメ之ヲ利用スルヿヲ圖ルニ至テハ最モ有効ニシテ然モ愉快ナルコトナラスヤ

昆蟲ノ變態　昆蟲ノ多クハ卵生ナリ卵ノ孵化スルヤ餌食ヲ資リ數回脫皮シテ成長ス此期ヲ幼蟲ト云フ幼蟲老成スレハ遂ニ資食ヲ止メ化シテ蛹トナル其蛹化スルニ繭ヲ營ミテ蟄スルモノアリ或ハ土中ニ入リ又ハ樹枝ニ附着スル等種屬ニヨリテ異ナルモノナリ蛹ハ普通數日ニシテ羽化スヿヲ成蟲ト云フ成蟲ハ産卵シテ後死ス如斯幼蟲蛹成蟲ノ變化顯然タルモノヲ完全變態ト稱シ蜻蛉、蝗蟲、浮塵子等ノ如クニ蛹期ノ明カナラサルモノヲ不完全變態ト云フ

昆蟲ノ幼蟲ハ無脚ナルアリ六脚ナルアリ或ハ八乃至二十餘ニ至ル等種目ニ從テ一樣ナラサレ𪜈其成蟲トナルニ及テハ何レモ六足ナリ故ニ昆蟲ヲ六脚蟲トモ稱ス

昆蟲ノ分類　昆蟲ノ數ハ夥シクシテ他ノ動物ノ數ヲ合算シタルモノヨリ尚多シ動物學上之ヲ分チテ左ノ七目トス

（一）直翅類　（二）羅翅類
（三）有吻類　（四）双翅類
（五）鱗翅類　（六）甲翅類
（七）膜翅類

說明ニハ括孤中ニ頭字ノミヲ記シ翅類ノ二字ヲ省ク故ニ（甲）トアル者ハ甲翅類ト知ルヘシ

害蟲ノ加害期　以上七類中其一生ヨリ加害ノ期ヲ別テハ直翅有吻甲翅ノ三類ハ幼蟲成蟲共ニ害アリ双翅、鱗翅、膜翅ノ三類ノ直接害アルハ幼蟲期ノミニシテ成蟲トナレハ花密ヲ吸ヒ及ヒ產卵スルニ止ル尙ホ羅翅類アレ𪜈之ニ屬スルモノハ率テ有益蟲ナリ

標本中ノ符號　♂ハ雄ニシテ　♀ハ雌ナリ

浮塵子　うんかよこばい　（有吻）

此蟲ハ稻ノ養液ヲ吸收スルモノニテ古來最モ恐ルヽ處ノ害蟲ナリ一年數回ノ發生アルヲ以テ氣候餌料等其生育ニ適スルトキハ繁殖殊ニ速ナリ其種類多ケレドモ就中とびいろうんか、つまぐろうんか、いなづまうんか等ハ普通ナル種類ニシテ且其害甚シキモノナリ驅除法ハ石油等ノ如キ藥液ヲ水面ニ滴下シテ拂ヒ落スニアリ但シ之ヲ行フニハ未タ多ク繁殖セサルトキ若クハ其幼稚ナルトキニ行フヲ肝要ナリ

稻螟蟲　いねずゐむし　（鱗）

此蟲ハ稻ノ害蟲中最モ恐ルヘキモノニシテ且每年發生スルモノナリ此蟲ノ蛾ハ六月中下旬ノ頃最モ多ク晝間ハ稻苗ノ葉裏ニ添フテ潛伏シ夜間出テヽ飛翔シ卵ヲ稻葉ニ產附ス其卵八日內外ヲ經テ孵化シ葉面ヲ匍匐シ葉液ヨリ入リテ先ツ葉鞘ヲ食シ後莖中ニ蝕入リ八月頃ニ至リ七八分ノ大サトナレハ莖中ニアリテ蛹トナリ再ヒ羽化シテ產卵ス其孵化シタモノ穗孕以後ノ稻ヲ害ス稻刈取后ハ莖中ニアリ幼蟲ノマヽニテ冬季經過ス防除法ハ蛾ヲ捕殺シ及ヒ卵ヲ摘採スヘシ

ねぼそるしむ　（鱗）

此蟲モ稻莖ヲ蝕害スルヿ前種ノ如ク蛾ノ腹部ハ纖毛密生ス卵ヲ稻葉ニ產シ躰毛ヲ以テ其上ヲ塗被スルヲ以テ淡褐色半楕円狀ヲ呈セリ此蟲ハ冬期ヲ稻株中ニテ經過ス其生育ノ經過前ニ異ラス

稻ノ螟蟲ハ以上二種ノ外尙ホ二化性螟蟲ナルモノアリ九州各國ニテハ害蟲ノ最タルモノナリ就中筑後地方最モ甚シ中國未タ此種アルヲ見ズ若シ他日之ガ傳播スルアラハ其害實ニ恐ルベシ

稻螟蛉　いねのあをむし　（鱗）

此蟲ハ稻ノ葉ヲ蝕害スルモノニシテ苗ノ稚嫩ナルトキニ於テ其害ヲ被ルコト甚シ一年三四回ノ發生アリ防除法ハ六月中下旬ノ頃蛹蛾幼蟲等ヲ注意シテ捕殺スヘシ

葉捲蟲　はまくりむし、つとむし　（鱗）

此蟲ハ稻葉ヲ綴リテ其中ニ潛居シ夜間出テヽ葉ヲ蝕害ス其多クハ八月中下旬ノ頃稻葉ヲ綴リ其中ニテ蛹トナル序テ羽化シタルモノヲいちもおせ〳〵ト云ヒ田圃山野ヲ撰バズ飛翔スルモノナリ

蝗　いなご　（直）

此蟲ハ稻葉ヲ食害スルヿ甚シ殊ニ稻ノ稚嫩ナル時ニ於テ其害尤モ多シ驅除法ハ捕蟲器ニテ

捕獲スヘシ

椿象　かめむし　（有吻）

此蟲ハ種類夥シク概子作物ニ有害ナレ𪜈其稻ニ害アルモノハいねかめむし、くもかめむしはりかめむし等ニシテ孰レモ早稻出穗ノ頃其穗ニ集リ花中ノ養液ヲ吸收スルヲ以テ粒實枯凋シ恰モ風害ヲ被リタルノ觀ヲ呈ス驅除法ハ捕蟲器ニテ捕獲スヘシ

稻象鼻蟲　いねぞうむし　（甲）

此蟲ハ插秧后稻苗ノ養液ヲ吸收シテ害アリ驅除法ハ現蟲ヲ捕殺スルニアリ

金龜子　こがねむし　（甲）

幼蟲ヲ蠐螬ト云ヒ麥ノ根其他蔬菜等ヲ蝕スル害蟲ナリ羽化シテ金龜子トナレハ大小豆果樹等ノ葉ニ群集シ一葉モ殘サヾルニ至ルコアリ驅除法ハ喉附ノ大形ナル捕蟲器ニテ拂ヒ落スヘシ多ク捕獲シタルトキハ肥料ニ調製シテ有益ナリ

叩頭蟲　こめつきむし　（甲）

此蟲ノ幼蟲ヲはりがねむしトト云フ麥ノ根元ヲ蝕シ大害ヲナスモノナリ防除法ハ幼蟲ヲ捕フルハ勿論ナレ𪜈六月頃麥圃ニ就テ叩頭蟲ヲ捕殺スヘシ又豫メ石灰煤等ヲ撒布スレバはりがねむしヲ殺スノ効アリ

天牛　くわかみきり　（甲）

此蟲ハ桑、無花果等ノ樹幹ヲ害ス羽化期ハ七月下旬ヨリ八月上旬ニシテ加害樹ノ幹ニ産卵ス其卵孵化スレハ直チニ蝕入リ三四年間幹又ハ根中ニアリテ蠹害スルヲ以テ自然ニ衰弱シテ枯死スルニ至ル防除法ハ現蟲及ヒ卵ヲ採ルヘシ幼蟲ノ木質部ニ蝕入リタルモノニハ注射器ヲ以テ除蟲菊ノ溶液ヲ注射スヘシ然レモ其卵ヲ發見スルコト容易ナレハ幼蟲ノ深ク蝕入ラサル前ニ驅除スヘシ

とらかみきり　（甲）

此蟲ハ桑樹ノ害蟲ニシテ生育ノ經過及ヒ防除法等天牛ニ仝シ

星桑　ほしかみきり　（甲）

此蟲ハ果樹、柳、桑等ノ害蟲ニシテ生育ノ經過及ヒ防除法等概ネ天牛ニ同シ

枝尺蠖　えだしやくとり　（鱗）

此蟲ハ桑葉ノ害蟲ニシテ一年二回ノ發生ナリ幼蟲ノ進行恰モ尺度ヲ測ルカ如シ故ニ尺蠖ノ名アリ其枝尺蠖ト云フハ晝間桑樹ニ棲息スル狀樹枝ニ酷似スルヲ以テナリ驅除法ハ現蟲ヲ捕殺スルノ外良法ナシ但シかもどきばちト稱スル寄生蜂ノ爲ニ斃ルヽモノ尠ナカラス若シ斃レテ垂下スルモノアラハ既ニ寄生ヲ受ケタルモノト認メテ可ナリ

とげしやくとり　（鱗）

此蟲ハ桑ノ發芽前ニ孵化シ群棲シテ桑葉ヲ食害ス驅除法ハ前種ニ同シ

金蛞蝓　きんけむし　（鱗）

此蟲ハ桑葉ヲ食害ス一年二回若クハ三回ノ發生アリ防除法ハ常ニ現蟲ヲ捕殺スルニアリ殊ニ桑ノ發芽期ニ於テスルヲ便トス

貝殻蟲　かひがらむし　（有吻）

此蟲ハ桑果樹等ノ養液ヲ吸收スルモノナリ防除法ハ土地ヲ乾燥ナラシメ風通シヲヨクシ繩ニテ擦リ潰スカ又ハ驅蟲劑ヲ用ユヘシ

ひめさうむし　（甲）

成蟲ハ春暖ノ候出テ桑葉ヲ蝕スレ𪜈當時ハ差シタル害ナシ然ルニ春蠶後桑ノ伐株ヨリ發芽スルヲ待テ蝕スル場合ニハ被害甚シク遂ニ枯死セシムルニ至ル而シテ六月下旬乃至七月上旬桑樹ニ産卵シ幼蟲ハ木質部ヲ食シテ成長ス防除法ハ桑樹ノ下ニ捕蟲器ヲ受ケ之ニ落シ又ハ冬期枯死シタル部分ヲ伐リ採リテ燃料ニ供スヘシ

くはゝむし○ひめはむし○かさはらはむし　（甲）

此三種ハ桑葉ノ害蟲ニシテ殊ニ早生桑ニ多シ驅除法ハ喉付圓形捕蟲器ニテ捕獲スレハ容易

ナリ

青羽々衣　あをばはごろも　（有吻）

此蟲ハ桑茶等ノ液汁ヲ吸收スルヲ以テ害アリ驅除法ハ強ク清水ヲ注射スルヲ良トス

蠁蛆蠅　かひこのうじはへ　（双）

此蟲ハ蠶ノ寄生蟲ニシテ蠶業家ノ大敵ナリ四月中羽化シテ卵ヲ桑葉ニ產附スルヲ以テ桑葉ト共ニ蠶兒ニ食セラレ其躰内ニテ孵化シ充分成長ノ後躰外ニ出テ(蛆)土中ニ入リテ蛹化シ翌年ニ至リテ再ヒ羽化スルモノナリ豫防法ハ蠶業家共同シテ蛆ヲ認メハ悉ク殺スニアリ

綿蝨　わたじらみ、くはじらみ　（有吻）

此蟲ハ蚜蟲ノ一種ニシテ桑葉ノ裏面ニ群棲シ養液ヲ吸收スルヲ以テ桑葉ニ害アルノミナラス蠶業上頗ル忌ムヘキ者タルハ人ノ知ル所ナリ其繁殖最モ速ナリ防除法ハ風通シヲヨクシ土地ヲ乾燥ナラシメ及ヒ喞筒ニテ清水ヲ注射スル等ノ外未タ良法ヲ發見セス

藍ぜるむし　（鱗）

此蟲ハ藼藍ノ害蟲ナリ防除法ハ苗ノ𦾔蛾ヲ捕獲シ及ヒ被害ノ莖ヲ認メハ幼蟲ノ各所ニ散セサル𦾔ニ莖ト共ニ採リ去ルヘシ

藍象鼻蟲　あゐざうむし　（甲）

此蟲ハ蓼藍ノ害蟲ナリ防除法ハ捕蟲器ニ拂ヒ落スヘシ

避債蟲　みのむし　（鱗）

此蟲ハ茶果樹等ノ葉ヲ食害シ其蔓延スルニ至テハ枯死セシムルヿ多シ生育ノ經過ハ前年發生シタルモノ越冬シテ五月下旬ニ至リ蛹ニ化シ六月上旬成蟲トナリ♂ハ翅ヲ生スレ𠀋♀ハ翅ヲ生スルヿナク蓑中ニアリ交尾ノ際ハ蓑ノ下口ニ出ッ而シテ卵ヲ蓑中ニ産附ス防除法ハ冬ヨリ蛹トナル頃迄ニ現蟲ヲ採ルヘシ

茶蛀蟌　ちゃけむし　（鱗）

茶葉ノ害蟲ナリ此蟲ハ幼稚ニシテ一所ニ群集シ居ルヿ驅除スルヲ便トス

葛上亭長　まめはんめう　（甲）

此蟲ハ八月頃發生シテ豆葉ニ大害ヲナス驅除法ハくはゝむしト同樣

こふきざうむし　（甲）

此蟲ハ大豆ノ葉ヲ食害ス驅除法ハくはゝむしト同樣

瓜守　うりはむし、うりばへ　（甲）

此蟲ハ南瓜西瓜胡瓜等ノ葉ヲ食スルモノナリ驅除法ハ藜灰ノ粉末ニ煙艸ノ小許ヲ混シテ朝露ノアルヿ葉ノ上ニ撒布スヘシ

但シ數株ヲ殘シ置キ其處ニ集ルヲ待テ眞綿ヲ張リタル框又ハ捕蟲器等ニテ捕獲スヘシ

廿八星瓢蟲　てんたうむしだまし　（甲）

此蟲ハ茄子瓜哇藭等ノ葉ヲ食害ス驅除法ハ茄子ニアリテハ時々見廻リテ卵幼蟲等ヲ捕殺シ亦ハ數株ヲ殘シ木灰ヲ撒布シ殘シタル所ニ來ル成蟲ヲ捕蟲器ニテ捕獲スヘシ

牛蒡象鼻蟲　こばうのざうむし　（甲）

此蟲ハ牛蒡ノ種實ヲ蝕害シテ空虛トナス驅除法ハ現蟲ヲ捕殺スヘシ

菜花蝶　もんしろてふ　（鱗）

此蟲ノ幼蟲ハ菜類ノ葉ヲ食害ス老成シテ一寸餘ニ至レハ多クハ他所ニ轉シテ蛹トナリ后羽化シテ蝶トナル驅除法ハ幼蟲ヲ捕殺スヘシ

油胡盧　ねんまこほろぎ　（直）

蔬菜及穀禾ヲ食害ス驅除法ハ潜所ヲ設ケ食餌ヲ與ヘ誘殺スルヲ佳トス

蠟蛄　けら

總テノ作物ニ害アリ此蟲ハ甚タ臭氣ヲ嫌フノ性アリ故ニ石油石腦油等ノ如キ劇臭アルモノ數滴ヲ被害地ノ所々ニ落シ土ヲ掩ヒ置ケハ之ヲ驅逐シ得ヘシ

蕪菁鋸蜂　のこぎりばち　（膜）

此蟲ノ幼蟲ハ黑蠋（方言びくに）ト稱シ蕪菁雞冠等ニ生シテ其葉ヲ食害ス驅除法ハ殺蟲劑ヲ調製シテ用フルカ現蟲ヲ捕殺スルニアリ此蟲ハ物ニ觸ルヽヤハ直チニ墜落スルノ性アリ

松鋸蜂　のこぎりばち　（膜）

幼蟲ハ松ノ葉ヲ食害スルヿ甚シ驅除法ハ捕蟲器ヲ受ケテ其內ニ墜スヘシ

せすぢすゞめ　（鱗）

幼蟲ハ里芋ノ葉ヲ食害ス故ニ之ヲ芋蟲ト稱ス驅除法ハ葉ノ食害セラレタル所及糞ノアル所等ニ注意シテ捕殺スヘシ

ゑびがらすゞめ　（鱗）

此蟲ノ幼蟲ハ甘藷ノ葉ヲ食害ス

めんがたすゞめ　（鱗）

此蟲ノ幼蟲ハ胡麻ノ葉ヲ喰ス

あげはのてふ〇くろあげは　（鱗）

此蟲ノ幼蟲ハ柑橘類山椒黃蘗等ノ葉ヲ食スル烏蠋（いもむし）ニシテ者ニ觸ルヽヤハ直チニ頭部ヨリ兩叉ノ肉角ヲ突出シ惡臭ヲ放ツ此蝶ハ能ク飛翔シ其幼蟲ノ好ム植物アレハ直チニ其葉ニ產卵ス此蟲ノ蛹ヲ縊蟲（おきくむし）ト云フ春秋二季ニ發生シ羽化期モ亦長キニ亘ル防除法ハ幼蟲及蛹ヲ捕殺

スヘシ

さあげは　（鱗）

此蟲ノ幼蟲ハ胡蘿蔔防風等ノ葉ヲ蝕ス發生期及防除法等前種ニ同シ

地蠶　さりうじ、よたうむし　（鱗）

此蟲ハ其種類甚多ケレ𪜈之ヲ大別スレハ禾本科植物ヲ害スルモノト禾本科以外ノ植物ヲ食スルモノヽ二種ナリ就中豌豆ノさりうじハ能ク人ノ知ル所ニシテ其蔓延尤速カナリ防除法ハ灌漑利用法食物及潛所誘殺法其他種々アレ𪜈一二行ニ記載シ得ラルヽ程ノ簡易ニシテ有効ナル良法ヲ發見セス

甘藷甲蟲　（甲）

此蟲ノ幼蟲ハ甘藷ニ蝕入リ大害ヲナスモノナリ豫防法ハ六七月頃甘藷甘藷畑ニ就キテ葉上ニアル成蟲ヲ捕獲スヘシ

刺蟲　いらむし　（鱗）

被害樹ハ柿、榎、棗等ナリ幼蟲ハ躰ニ銳刺ヲ有スル蛞ニシテ人之ニ觸ルレハ刺傷セラル豫防法ハ冬期標本ニ示ス如キ繭ヲ採リ去ルベシ

穀蛾　こくが　（鱗）

穀象　こくぞう　（甲）

何レモ貯藏穀類ノ蟲ナリ防除法ノ一トシテ穀類ノ乾燥ヲ能クスルニアリ

ひめあかたては　（鱗）

幼蟲ハ［illegible］ノ葉ヲ蝕スル蛞蝓ナリ防除法ハ幼蟲及蛹ヲ採ルヘシ

栗蟲　くりむし　てぐすてふ　（鱗）

幼蟲ハ白髮太郎ト稱シ栗、樟、木蘭子、櫟等ノ葉ヲ食スルヲ以テ是等ノ樹木ニハ害蟲ナレ𪜈

幼蟲ノ老熟シタルモノヨリてぐすト稱スル釣糸ヲ採ルヿヲ得ヘシ

益蟲之部

きまめやどりばち　（膜）

寄生蜂ノ一種ニシテ螟蛉烏蠋蛞蝓等ノ幼蟲ニ寄生ス此蟲ハ老成スレハ寄家ヲ出テ、黃色ノ小繭ヲ營ムヲ以テ此名アリ

かもどきばち　（膜）

桑樹ノ害蟲タル尺蠖ニ寄生スル所ノ有益蟲ナリ

あをむしやどりばち　（膜）

標本ニ示シタルハ稻ノ螟蛉ニ寄生シタルモノニシテ苗ノ葉ニ附着シタル十數粒ノ小繭ハ寄

家タル螟蛉ヲ斃シテ出テタルモノヽ此處ニ集リテ營ミタル繭ナリ此小繭ヲ害蟲ノ卵ト誤認スル人尠カラス

螟蟲卵の寄生蜂　（膜）

螟蟲ノ卵ニ寄生スルモノニシテ最モ有益ナル一種ナリ螟卵ノ此寄生蜂ノ爲ニ孵化力ヲ失フモノ十中六七ニ及フコアリ標本中ニテハ此蜂最小ナレ𪜈寄生蜂中尚之レヨリ小ナルモノ尠カラス

天牛卵の寄生蜂　（膜）

桑果樹等ノ大害蟲タルかみきりむしノ卵ニ寄生スルモノニテ一卵中二十乃至三十頭モ寄生ス此蜂ノ多キ場合ニハかみきりむしノ卵ハ率テ之カ巢床トナリ其孵化スルモノ十分ノ一ニモ及ハサルコ往々實見スル所ナリ故ニかみきりむしノ驅除ニ際シテモ此寄生蜂ヲ損傷セサル樣注意スヘキモノナリ

馬尾蜂　（膜）

此蜂ハ長キ產卵管ヲ有スルヲ以テ他ノ食肉蟲寄生蟲等ノ及ハサル木質内ニ棲息スル所ノ天牛象鼻蟲等ノ幼蟲ニ寄生スルコヲ得ルモノニテ頗ル有益ナルモノナリ

足長蜂　あしながばち　（膜）

此蜂ハ多ク人家ノ擔等ニ巢ヲ造ルヲ以テ能ク人ニ知ラレ且ツ人ニ嫌忌セラル其果實ヲ害スル点ヨリ謂フトキハ蟲害ナレモ多數ノ仔ヲ養フ爲ニ害蟲類ヲ巢ニ運フヿ勘カラサルノ益ハ害ヲ償フテ餘リアルヘシ

地蜂　おばち、へほ　（膜）

地中ニ巢ヲ營ム害蟲類ノ是カ爲ニ捕食セラルヽモノ甚タ多シ

斑蚿　はんめう又みちをしへ　（甲）

此類中にほはんめう、さびはんめう、ひめはんめう等ハ普通ナルモノニシテ成蟲幼蟲共ニ蟲類ヲ捕食ス

ねさむし類〇でみむし類〇へこきむし〇まいまいかぶり　（甲）

以上各種ノ甲蟲類田圃山野ノ別ナク何レノ處ニモ棲息シ其性肉食ナルヲ以テ有益ナリ晝間ハ多ク塵芥木ノ葉等ノ下ニ潛伏シ夜間歩行シテ食ヲ求ム

瓢蟲　てんたうむし

其種類頗ル多シ廿八星瓢蟲ヲ除クノ外ハ悉ク有益蟲ニシテ農家ノ最モ憂フル所ノ蚜蟲ヲ食餌ス就中七点瓢蟲ノ如キハ著効アルモノナリ瓢蟲類ハ繁殖頗ル速ニシテ且ツ幼蟲成蟲共ニ肉食ナリ故ニ胎生ヲ以テ驚クベキ繁殖力ヲ有スル蚜蟲モ之カ爲ニ暴威ヲ逞フスルヿ能ハサ

ルニ至ルヿアリ

きくすひたまし〇ひめきくすひたまし　（甲）

此蟲ハ四月下旬ヨリ五月上旬頃多ク生シ果樹又ハ林中ニアリテ蟲類ヲ捕食ス

隱翅蟲　はねかくし　（甲）

此蟲ハ前翅甚短ク其下ニ后翅ヲ疊込ム以テ恰モ翅無キガ如シ故ニはねかくしノ名アリ主ニ地上ヲ歩行シテ小蟲ヲ食ス數種アリ就中あをばはねかくしハ田圃ニ尤モ多キヲ以テ之カ農家ニ益アルヿ勘カラス

あをめあぶ〇しほやあぶ〇むしひきあぶ〇れほむしひき　（双）

此數種ハ何レモ食肉性ニシテ山野ニ多シ

ひらたあぶ〇ひめひらたあぶ〇くろひらたあぶ　（双）

此三種ハ蚜蟲ノアル所ニ來リテ産卵ス其幼蟲ハ蚜蟲ヲ餌トスルヲ以テ有益ナリ

寄生蠅　やどりばへ　（双）

此種類頗ル多ク其蕃殖最モ速ナルカ故ニ害蟲ノ多クハ之カ寄生ヲ受ク而シテ是等蠅類ガ他蟲ノ寄生ヲ被ルヿハ稀ナルヲ以テ害蟲ヲ斃スコト甚多ク益蟲中ノ最ナルモノナリ蠶ノ如キモ若シ害蟲ナラハ寄生蠅ノ一種タル蠶蛆蠅ノ農家ニ與フル利益勘ナラサルノ理ナリ

さしかめ　（有吻）

此類ニ數種アリ他蟲ヲ刺殺シテ理トス

草蜻蛉　くさかげろふ　（羅）

此蟲ノ幼蟲ハ蚜蟲ヲ餌トスルヲ以テ有益ナリ其卵ハ俗ニ優曇華ト稱スルモノナリ

蜻蛉　とんぼ　（羅）

其種類頗ル多クなつあかね、みやまあかね、さなへとんぼ、紅蜻蛉（むぎわらとんぼ）、しほやとんぼ、赤卒（しやうゝ）、青卒（あをんぼ）、かわとんぼ、いとゝんぼ、蜻蜓（やんま）、馬大頭（をにやんま）等ハ普通ナルモノニテ其他何レモ皆有益ナリ此蟲ハ田圃山野ノ別ナク徘徊シテ其眼ニ觸ルヽ蟲類ハ何タルヲ撰ハス暴食スルノ性アリ

蟷螂　かまきり　（直）

此類中かまきり、ねはかまきり、はらびろかまきり等ハ能ク目ニ觸ルヽモノナリ此蟲ハ概テ棲息スル所ノ植物ノ色ニ擬スルヲ以テ他蟲之ヲ知ラスシテ接近シ爲ニ捕食セラルヽモノ多シ性最モ雄猛暴食ナルヿ何人モ知ル所ナリ之カ卵タル烏ノヨドハ勉メテ受護スヘシ

D
8-5
352